

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<久美浜学園> 指導の重点: 学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) (3) 家庭学習時間の確保 ◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 1 非認知能力の伸長と、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善 4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立		○学校のデジタル改革を目指した指定事業を活用し、多くの成果発表会、研修会、公開授業等を実施した。ICTを効果的に活用した授業づくりの取組の活性化により、教員一人ひとりの意識と授業力が向上したとともに、生徒の協働的な学びや学力向上の面で大きな成果が見られた。 ○SDGsの取組をはじめとする生徒会活動がさらに活性化した。取組は久美浜学園全体に広がり、環境関連フォーラムでの発表等、町外にも積極的に発信することができ、生徒の自信や自己肯定感の高まりに繋がった。 ○よさのうみ支援センターや各病院・クリニックなど、多くの関係機関との継続的連携により、専門家の助言を生かした根拠ある見立てと効果的な指導が可能になった。 ○同窓会との共催により「くみちゅうキャリアフェスティバル2023」を開催するとともに、遠隔交流事業など丹後緑風高校久美浜学舎との共同事業を数多く展開し、地元や地元の学校に対する意識が高まった。 △今後は、不登校を含むすべての生徒一人ひとりを伸ばすための個別最適な学習の研究や推進を重点的に展開していく必要がある。 △アフターコロナにおけるコミュニケーション力の回復が課題。様々な主体的活動の活性化が必要である。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 教育活動の重点的方針 (1) 価値観の変化への対応と多様性を踏まえた教育活動の精選、新たな生徒指導及び教育相談の充実 (2) 認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業改善の推進 (3) 地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」と「開かれた教育課程」を進めるためのカリキュラムマネジメントの推進 2 職務上の重点的指針 (1) 学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりのための教員の資質向上 ・評価方法や授業展開等における研修の充実 ・「開かれた教育課程」を目指した地域資源や丹後学を活用した授業づくりの推進 (2) 生徒指導提要の趣旨に沿った生徒理解の推進と組織体制の整備 ・発達支持的生徒指導の具体に関する研修の充実 ・新たな不登校生徒へのアプローチとICTの活用 (3) 教職員の働き方改革推進及び服務規律の徹底 ・勤務や勤務時間に対する意識改革 ・通信機器や個人情報に係る危機意識の向上
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	◇「探究的な学び」の視点による生徒の学力・学習状況の分析 ◇認知能力と非認知能力を一体的に伸長させる学力向上・授業づくり・ICT活用の取組	◇全国及び京都府学力・学習状況調査等の結果から、生徒の状況を「探究的な学び」の視点で把握 ◇ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な授業づくりの推進 ◇タブレットの持ち帰りによる家庭学習の充実 ◇定期テスト改革推進と定期テストのみに依拠しない単元や定着を重視した評価の場の設定 ・各教科のシラバスと評価方法の提示 ◇グローバル人材の育成と英語力の向上	○「学びのパスポート」を活用して、質問事項から「探究的な学び」の視点で18項目を抜き出して、府平均に対する分析を行い、本校生徒の状況を把握した。 ○一部の教科ではあるが、単元テストを数回にわたり設定し、生徒の意欲向上に努めることができた。 △タブレットの持ち帰りは全校生徒に定着しているものの、ネットワークを活用した家庭学習の充実には不十分さが残り、今後研究を進める必要がある。

学校教育指導の重点、 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	◇「いじめ・不登校未然防止」に向けた迅速な情報共有と丁寧な組織的対応 ◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題解決に向けた取組 ◇主体的活動の活性化 ・SDGs の取組の充実	◇生徒指導・教育相談・特別支援教育の一体的展開 ・専門的な意見を取り入れたアセスメントの充実 ◇別室機能のさらなる強化と学習補充の充実 ◇生徒会活動・学級活動の充実と継続 ◇SDGs の取組継続と丹後学・横断的学習の展開 ◇討議・話し合い活動の場の設定	○12 月末現在の不登校(傾向)生徒数は昨年度比で 5 名の減となり、未然防止に向けた組織的な対応をとることができたといえる。 ○SDGs の取組では生徒会を中心に継続して実施し、保幼小中を通して活性化を図ることができた。 ○生徒会を中心に、校則について考えることができた。
	健康（体育）・安全	◇実効性ある危機管理マニュアルの確立、避難訓練等の充実等	◇緊急時対応訓練の実施（土砂災害、火災、不審者、地震） ◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニュアルの徹底 ◇健康・安全に関する教育の充実	○コロナ禍を経て、マスク着用や手指消毒等が一定定着しており、ウイルス感染防止は概ねできている。 △京丹後警察との連携を一層深め、不審者の対応については継続して学習する必要がある。
	特別支援教育	◇校内指導体制の機能化 ◇通常学級における特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実 ◇合理的配慮の継続的検討と組織的対応	◇特別支援教育の視点で展開する全教育活動の展開 ◇特支アセスメント・個別の指導計画・個別の支援計画・小中連携資料・教育相談個票の日常的活用と検証、全教員での共有化 ◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○特別支援教育コーディネーターを中心にして、校内の指導体制を機能させることができた。 ○支援を要する生徒の学びの場を検討することで不登校の未然防止を図ることができたケースがあった。 ○保護者連携についても、タイミングを逃さず継続的に行うことができ、個別の支援を両輪で行えている。 ○よさのうみ支援学校や各病院との連携についても、昨年度に引き続き実施しており、効果を上げている。
	開かれた学校づくり	◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化 ◇学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開	◇丹後学の充実…丹後学・ふるさと学習・体験学習の一体的展開 ◇学校運営協議会・地域学校協働活動と学校教育活動の実効性ある一体化 ◇学校運営協議会を窓口にした地域人材の活用…講話学習・授業への積極的活用 ◇学校支援ボランティアの積極的活用・拡充 ◇同窓会等と連携したふるさとと母校を愛する心情を育てる取組の推進 ◇地元高等学校との連携共同事業の活性化	○同窓会と連携したキャリアフェスティバルでは、町内出身で地元企業の代表取締役社長を講師にお招きして講話を拝聴し、生徒会本部とのトークセッションを行うことができた。 ○1 年生での体験学習を見直し、地域の年配者に思いを聞かせて貰いふるさとを愛する取組の一助となった。 △地元高等学校との連携共同事業については、一定行えたものの、昨年度と比較すると活動回数は減少した。
次年度に向けた改善の方向性		◇学習や人間関係、家庭環境や生活習慣などについて、一人ひとりに対しての丁寧な指導・支援を展開し自立を促す。組織的かつ早期に対応を行い、特別支援教育の視点も踏まえながら、より一層学校不登校出現率を改善する。 ◇生徒指導提要における授業づくりの 4 つの視点『①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安全・安心な風土の醸成』に沿った授業改善を進め、「わかった」「たのしい」と思える学級や授業づくりを進めていく。 ◇ICT を活用し、個別指導・家庭学習などの充実、学習の場の提供などを促進し、個別最適な学びの実現に向け、環境整備や研修等を充実させる。		